

# 旧国宝、熱田神宮海上門の復元



かつて熱田神宮には4つの門（海上門（海蔵門）、春敲門、鎮皇門、清雪門）がありました。海上門は、1920年（大正9年）4月15日に旧国宝に指定されましたが、1945年（昭和20年）5月17日の戦災で焼失しました。

1945年までは、「信長塀」は国宝の海上門とつながっていました。

今回、熱田区役所の事業として、広島大学名誉教授の三浦正幸氏に監修を受け海上門のAR（拡張現実）での再現を行いました。

## 1 調査

絵図や古写真を元に、復元の基礎資料を収集しました。また、現地に残された礎石の痕跡から、建物の柱間寸法を導き出しました。

### 1-a 資料調査

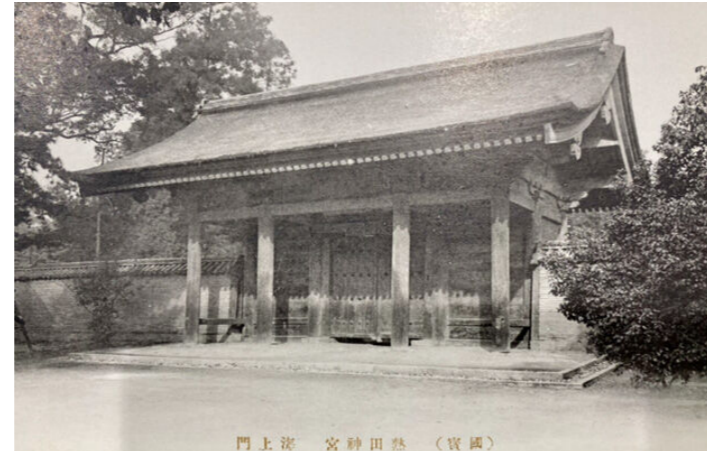
復元を行うための基礎資料の収集のため、焼失する前の絵図や古写真などを調査しました。調査の結果、門は朱塗りであったことが絵図などから判明しました。また、AIによる古写真のカラー化を行った結果、朱塗りが薄くなったとみられる痕跡なども確認できました。



熱田神宮并別宮境内図（出典：『熱田神宮名宝図録』）



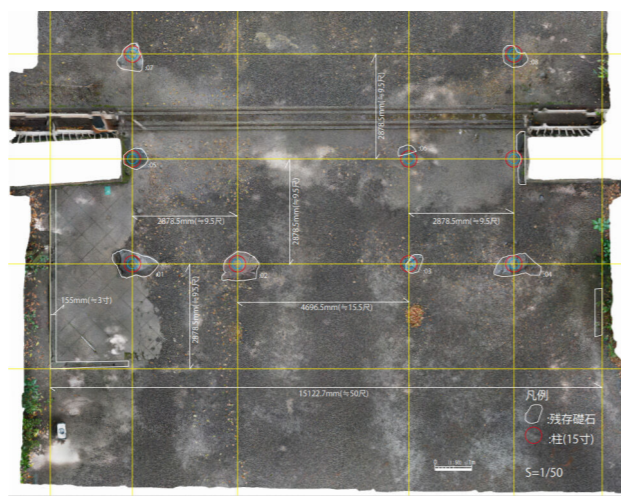
『熱田祭典年中行事図会』巻二（名古屋市蓬左文庫蔵）



熱田神宮絵葉書

### 1-b 現況調査

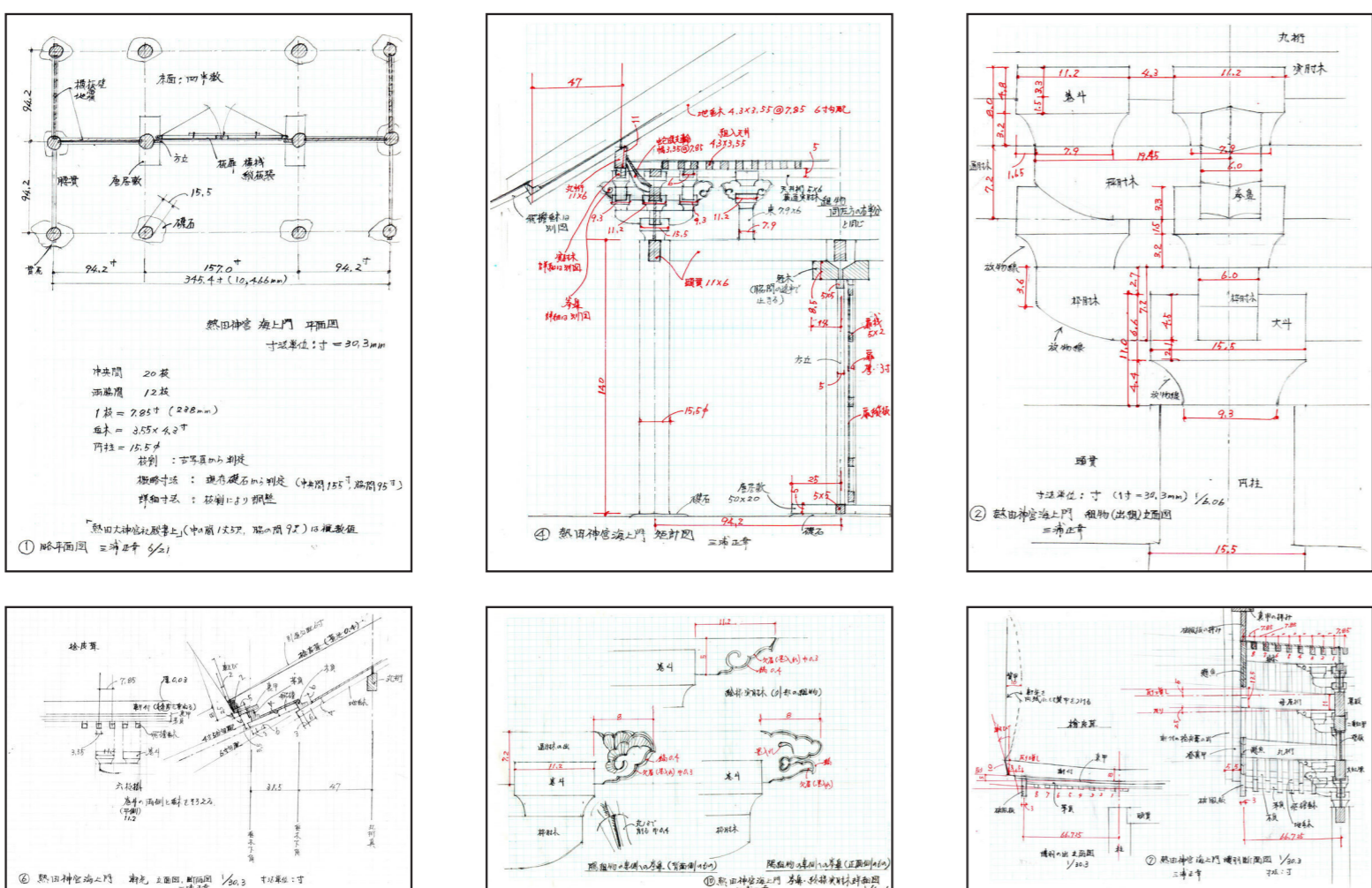
現在の信長塀の間には、海上門の礎石と数石の一部が残されています。礎石は、元の形状はとどめておらず、割れたり門の焼失時に失われてしまったものもあることが判明しました。それでも、礎石のおおよその中心位置を割り出して、柱間寸法を導き出しました。



寸法を記載した図面

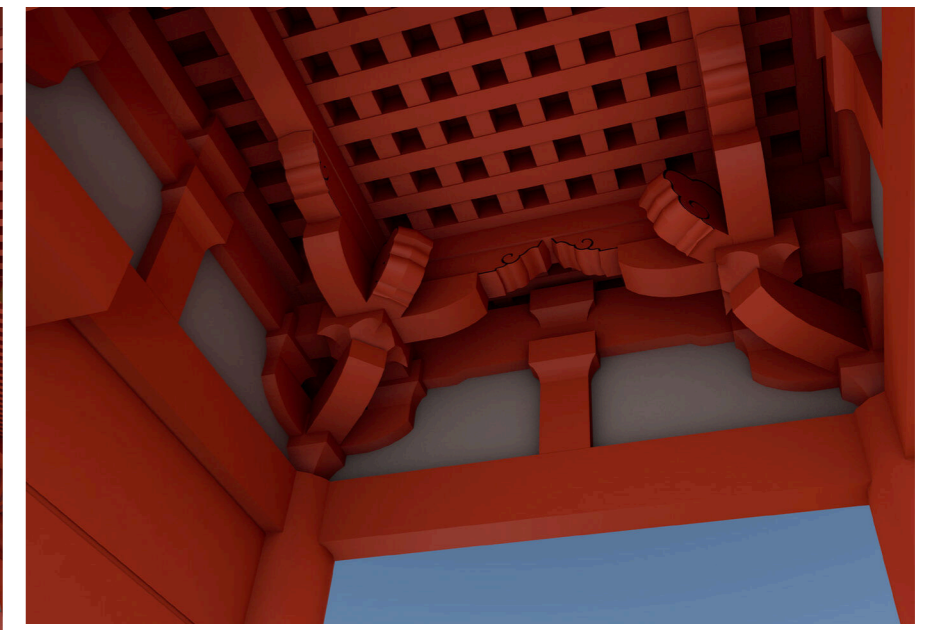
## 2 復元図の制作

調査によって得られた資料を基に、復元図を作成しました。作成した図面は、全部で14枚に及びます。復元図は、三浦氏によるものです。



## 3 3DCG の制作

復元図を元に、海上門の3DCGを制作しました。特に、屋根の形状や、組物の細部も正確に3D化しています。



## 4 AR による再現

制作した3DCGをAR空間上に表示するために、今回はマーカータイプのAR表示と、スマートフォンのGPS機能を利用して、現地に海上門を再現する2つの方法で表示を行います。



GPS機能を利用したARの表示イメージ



QRコードをスキャンして下さい



なごや歴史探検アプリダウンロードは二次元コードから  
海上門 3DCG は 2022 年 11 月 1 日に公開

